

令和6年度
発達障害者相談支援スキルアップ研修
実施報告

社会福祉法人 嬉泉

研修概要

目的: 区市町村における相談支援の質を確保するため、支援現場で中核を担う人材の育成(より実践的な技術の取得(スキルアップ))を図り、相談支援窓口における支援力の強化に資すること

対象: 区市町村ならびに発達障害に関わる支援機関において、相談支援業務等の中核を担う職員

内容:

■相談研修Ⅰ「思春期の発達障害～理解と支援～」

■相談研修Ⅱ「乳幼児期の発達障害～理解と支援」

■相談研修Ⅲ「青年期の発達障害～教育から社会へ～」

■相談研修Ⅳ「強度行動障害について」

■相談研修Ⅴ「家族支援について」

■実技研修Ⅰ「発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング ～『SST』という支援方法を知ろう～」

■実技研修Ⅱ「発達障害のある人へのアセスメント技術を高める」

■実地研修 発達障害のある人々への支援の実際～支援者としてのあり方を振り返る～

Ⅰ 「乳幼児における発達障害の子どもへの支援の実際」

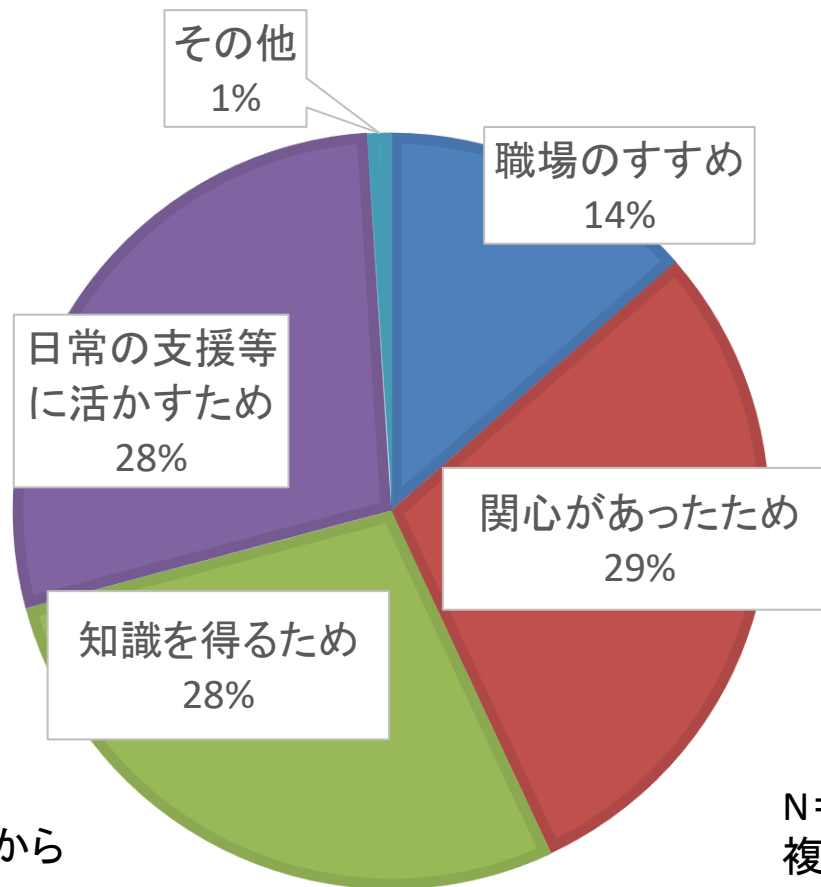
～児童発達支援センターにおける本人支援と家族支援の実際を通して～

Ⅱ 「成人期における知的障害を伴う自閉症の人への支援の実際」

～通所施設の本人支援と家族支援の実際を通して～

参加を申し込んだ理由（複数回答有）

※令和7年1月31日までの実施研修



■「その他」の回答

- ・昨年度、参加して良かったから
- ・学びを職場で還元したいと考えたから
- ・虐待防止委員会の中で研修の必要性を感じたため

N=127名
複数回答有

■相談研修Ⅰ 研修内容と実施状況

■相談研修Ⅰ 「思春期の発達障害 ～理解と支援～」

・講師:木村 一優 氏

(医療法人新新会多摩あおば病院副院長 精神科医師)

・事例提供者:中莖 里実

(清瀬市子どもの発達支援・交流センター 公認心理師)

・日時:令和6年9月6日(金)13:00～16:00

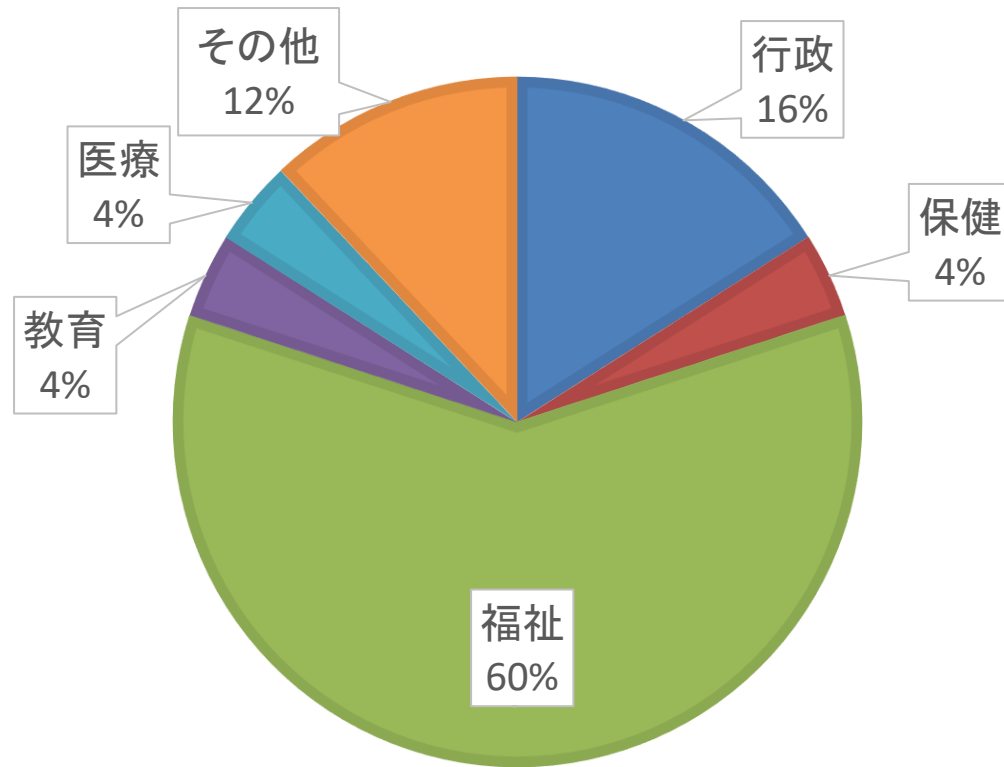
・場所:ワйм貸会議室高田馬場

・実施形態:集合研修

・参加人数:25名(定員20名)

参加者の概況(所属等)

■相談研修Ⅰ「思春期の発達障害～理解と支援～」



■ 行政 ■ 保健 ■ 福祉 ■ 教育 ■ 医療 ■ その他

N=25/20

■ 相談研修Ⅰ：感想

★事後アンケートによる

【講義】

- ・思春期の発達障害の難しさについて、思春期および特性の両面からの解説によって理解でき、勉強になった。
- ・思春期および特性があるがゆえの「不安」への捉え方、扱い方、また「安心」できるものとして返すための働きかけ、支援について考えさせられた。

【事例提供＋グループディスカッション】

- ・様々な自治体、多職種の視点を通して、気づきや学びを得た。
- ・対象者を孤独にさせない、継続的な支援を意識することの大切さを改めて感じた

■相談研修Ⅱ

研修内容と実施状況

■相談研修Ⅱ 「乳幼児期の発達障害～理解と支援～」

・講師:田中 哲 氏

(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長 精神科医師)

・事例提供者:青木 翠

(児童発達支援センターヒツジ 主任児童指導員)

・日 時:令和6年9月7日(土)13:00～16:00

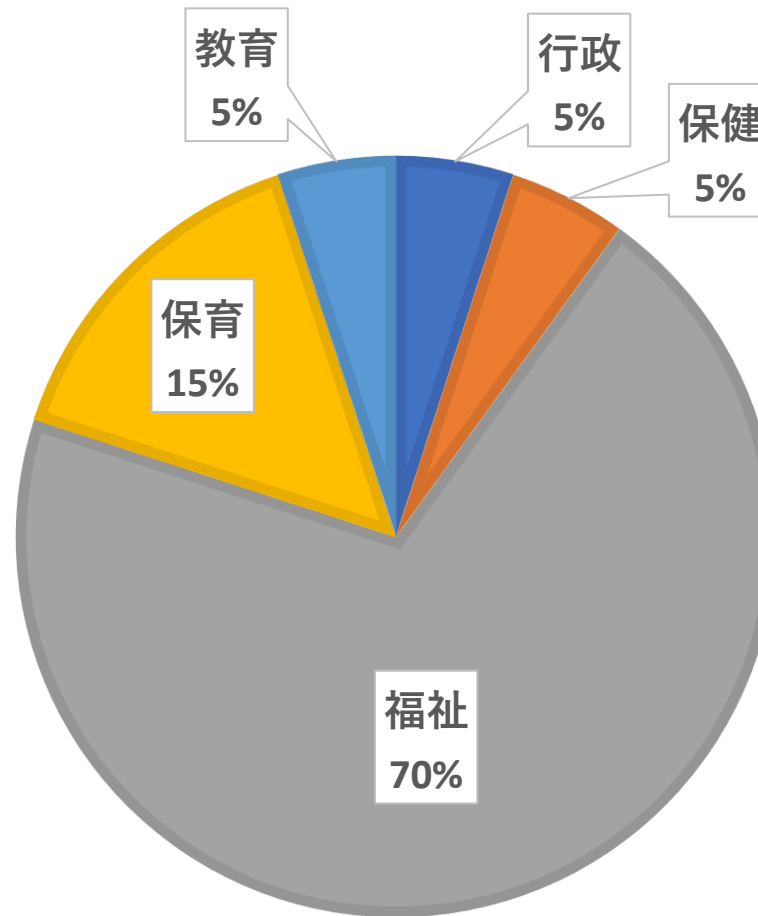
・場 所:ワйм貸会議室新宿西口

・実施形態:集合研修

・参加人数:20名 (定員:20名)

参加者の概況(所属等)

■相談研修Ⅱ 「乳幼児期の発達障害～理解と支援～」



■ 行政 ■ 保健 ■ 福祉 ■ 保育 ■ 教育

N = 20/20

■ 相談研修Ⅱ：感想

★事後アンケートによる

【講義】

- ・子どもの行動の原理が理解できた。その上で、子どもの行動だけではなく、理由にフォーカスして支援していきたいと感じた。
- ・改めて、子どもにとって養育者の安定した関わりが重要であり、そのために養育者の状態をみることも重要になると感じた。

【事例提供＋グループディスカッション】

- ・グループディスカッションによって、事例に対する可能な支援について多くのアイディアが得られた。さらにグループ発表によって、新たな視点に気付くことができた。

■相談研修Ⅲ

研修内容と実施状況

■相談研修Ⅲ 「発達障害への支援～教育から社会へ～」

・講師：渡辺 慶一郎 氏

（東京大学 相談支援研究開発センター副センター長 精神科医師）

・事例提供：柏木 理江

（東京都発達障害者支援センターこどもTOSCA 相談員）

・日時：令和6年11月26日（火）13:00～16:00

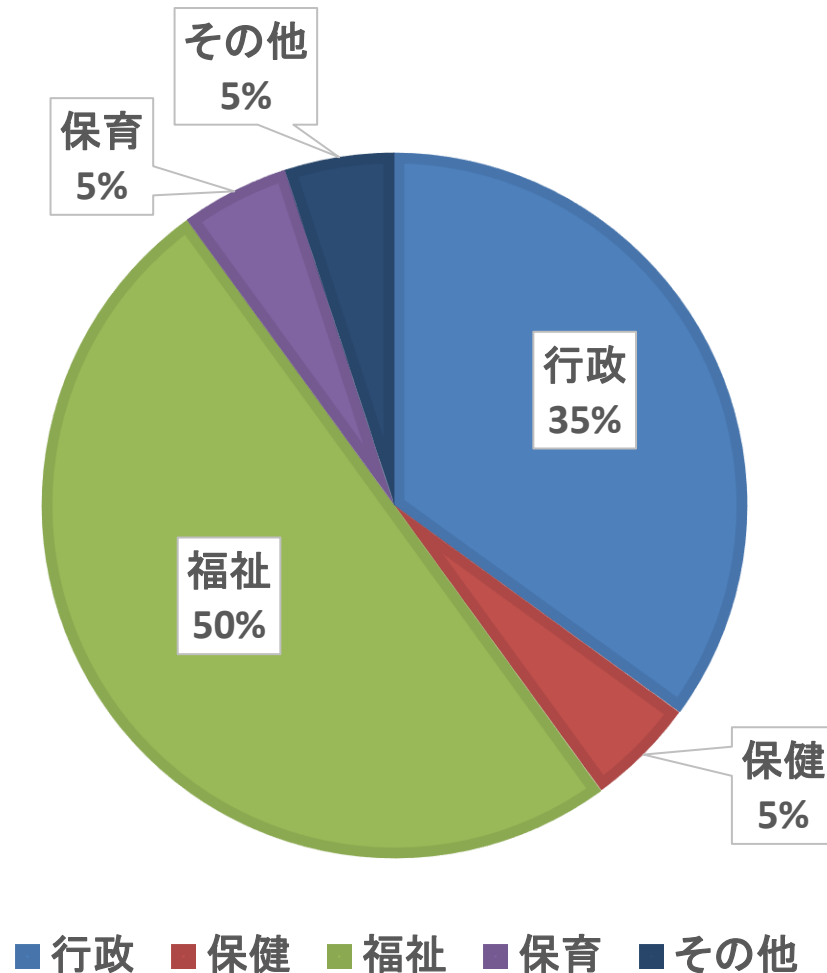
・場所：ワйм貸会議室お茶の水

・実施形態：集合研修

・参加人数：20名（定員：20名）

参加者の概況(所属等)

■相談研修Ⅲ 「発達障害への支援～教育から社会へ～」



■ 相談研修Ⅲ：感想

★事後アンケートによる

【講義】

- ・発達障害について、様々なデータに基づいた講義によって、知識が得られ、理解を深める機会になった。
- ・支援の土台となる関係づくりが大切であると感じた。

【事例提供＋グループディスカッション】

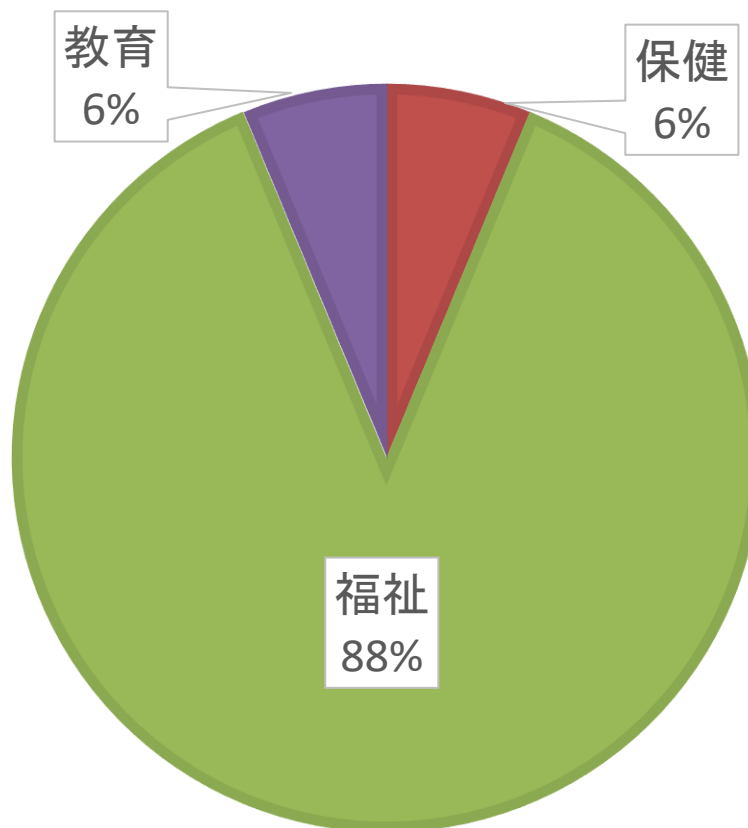
- ・対象者を実年齢と発達年齢の両方から捉える支援の視点をしることができた。
- ・対象者が、支援者との関係によって言動を変えられるような関係性を自身もつくっていきたいと思った。

■相談研修Ⅳ 「強度行動障害について」

- ・講 師：沼倉 実(社会福祉法人嬉泉 理事)
- ・事例提供者：坂下 幸生(おおらか学園副園長)
- ・日 時：令和7年1月24日(金)13:00～16:00
- ・場 所：ワйм貸会議室高田馬場
- ・実施形態：集合研修
- ・参加人数： 名 (定員：20名)

参加者の概況(所属等)

■相談研修Ⅳ 「強度行動障害について」



■ 保健 ■ 福祉 ■ 教育

N=16/20

■ 相談研修Ⅳ：感想

★事後アンケートによる

【講義】

- ・強度行動障害への対応について、ポイントとなる知識を得ることができた。
- ・行動にのみとられるのではなく、行動の背景にある本人の気持ちや要因に目を向けることが必要であると感じた。
- ・幼少期からの行動等に着目し、保護者の困り感に寄り添い、社会で本人の成長をサポートする働きかけが大切だと思った。

【事例提供＋グループディスカッション】

- ・提供された事例より、支援者は、相手と向き合う目と状況を俯瞰してみる目の2つが必要であることに気付いた。
- ・グループディスカッションで、色々な職場の方の意見を聞くことができ興味深かった。もっと時間があってもよかった。

■実技研修Ⅰ

研修内容と実施状況

■実技研修Ⅰ

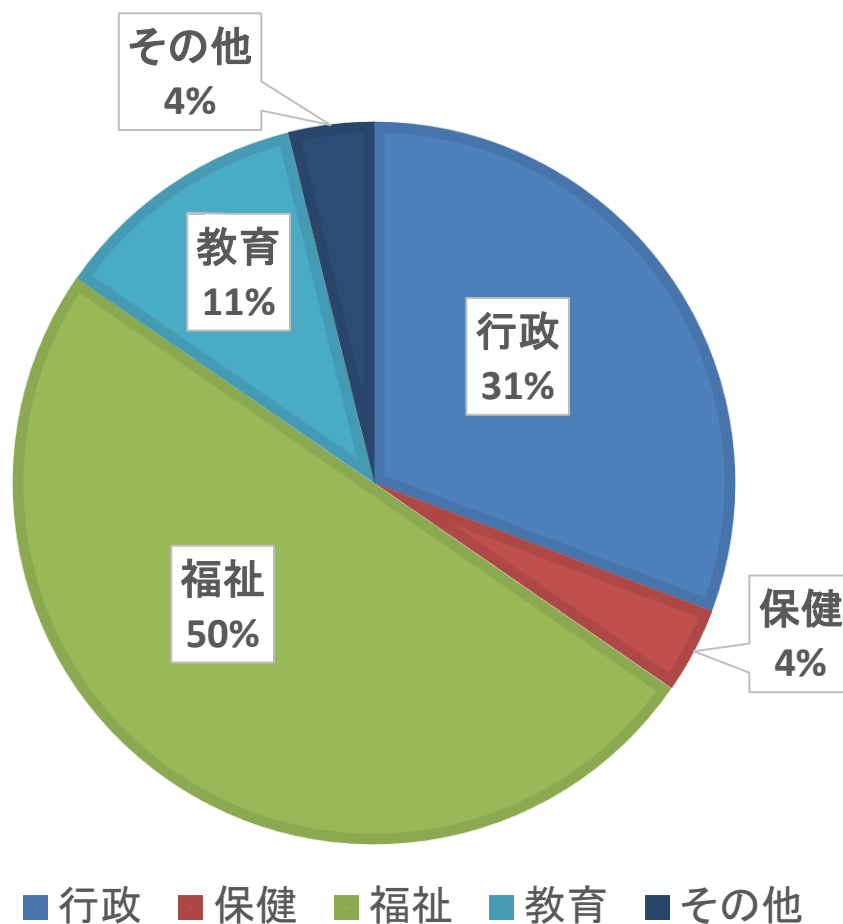
「発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング
～『SST』という支援方法を知ろう～」

- ・講 師：岡田澄恵氏（SST普及協会認定講師）
河島京美氏（SST普及協会認定講師）
清水有香氏（SST普及協会認定講師）
- ・日 時：令和6年10月31日（木）10:00～16:00
- ・場 所：ワйм貸会議室お茶の水
- ・実施形態：集合形態
- ・参加人数：26名（定員：30名）

参加者の概況(所属等)

■実技研修 I

「発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング」



■実技研修Ⅰ：感想

★事後アンケートによる

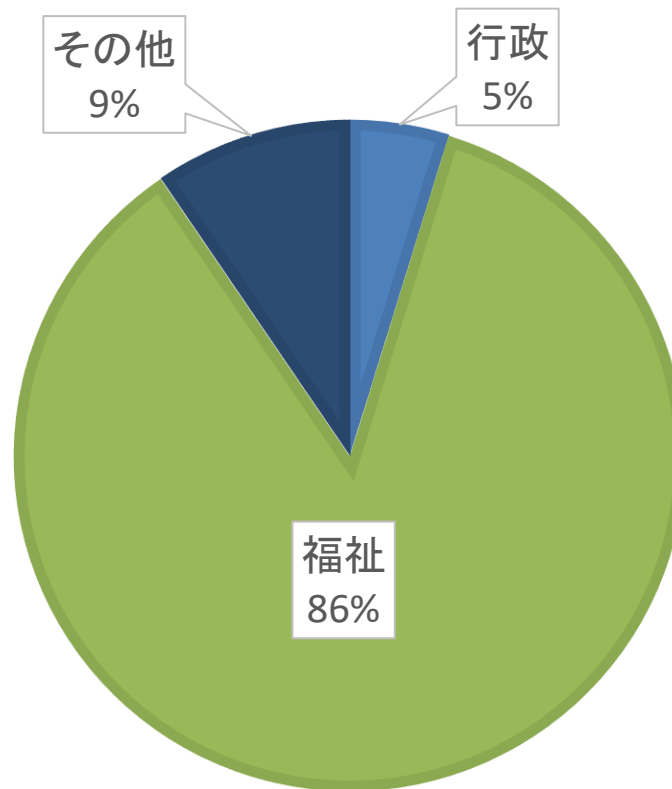
- SSTについて、誤った認識であったことに気付いた。SSTの基本を理解でき、学ぶことができた。
- SSTは、クライアントの困りごとや課題等、現実場面に合わせて練習内容を決めるといったように、あらゆる場面で活用できる汎化性が高いものであることが分かった。
- SSTを体験できたことで、声のかけ方やタイミング等が参考になり、実際の面談や支援の現場ですぐに活用できそうだと感じた。

■実技研修Ⅱ「発達障害のある人へのアセスメント技術を高める」

- ・講 師:近藤 直司 氏(大正大学名誉教授)
- ・日 時:令和6年11月7日(木)10:00～16:00
- ・場 所:ワйм貸会議室お茶の水
- ・実施形態:集合形態
- ・参加人数:21名 (定員:20名)

参加者の概況(所属等)

■実技研修Ⅰ 「発達障害者へのアセスメント技術を高める」



■ 行政 ■ 福祉 ■ その他

N=21/20

■実技研修Ⅱ：感想

★事後アンケートによる

- ・情報を生物、心理、社会、環境に分けることで整理がしやすかった。
- ・アセスメントの質を考え、意図を持ってインテークすることが大切であると感じた。
- ・日頃から、ケース記録をとる際等、アセスメントを意識する習慣をつけたい。
- ・相手に分かりやすい伝え方、ケース会議の進め方等、練習することで自身を振り返る機会になった。同時に、今後意識していくべきことの見通しが持てた。
- ・今後、職場で取り入れていきたい。

研修内容【予定】

■ 相談研修Ⅴ ■ 実地研修Ⅰ・Ⅱ

■ 相談研修Ⅴ 「家族支援について」

- ・講師: 岩澤 寿美子(清瀬市子どもの発達支援・交流センター センター長)
- ・事例提供者: 草野 牧子

(大田区立子ども発達センターわかばの家 相談支援事業所 主任相談支援専門員)

- ・日時: 令和7年2月17日(月)13:00～16:00
- ・場所: ワイム貸会議室お茶の水
- ・実施形態: 集合研修
- ・定員: 20名

■ 実地研修 「発達障害のある人々への支援の実際 ～支援者としてのあり方を振り返る～」

実地研修Ⅰ 通所施設の本人支援と家族支援の実際を通して

- ・講師: 大岩 香代子(おおらか学園園長)、江村 久美子(児童発達支援管理責任者)
- ・日時: 令和6年2月28日(水)10:00～12:00
- ・実施形態: 集合研修
- ・定員: 10名

実地研修Ⅱ 児童発達支援センターにおける本人支援と家族支援の実際を通して

- ・講師: 大岩 香代子(めばえ学園園長)、坂下 幸生(おおらか学園副園長)
- ・日時: 令和6年2月29日(木)10:00～12:30
- ・実施形態: 集合研修
- ・定員: 10

まとめ＜今後の課題＞

研修形態については、昨年度同様に集合研修で実施した。

内容については、ライフステージやニーズが高いと思われるものをテーマにし、相談研修においては、講義とディスカッションの構成で実施した。

グループディスカッションについては、「地域、職種が異なる人の意見等を聞くことができ、新たな気づきにつながった、視点が広がった」といった感想が多く、高評価を得ることができた。

次年度も引き続き、実際の現場で活かせる実践的な研修の提供を検討していきたい。

ここ数年、課題となっていた受講者の確保については、東京都より各区市町村に向けた周知、社会福祉法人嬉泉のホームページへの掲載に加え、事業所に直接開催案内を郵送するなどの啓発を行った。これによって、申し込んだ方が数名おり、一定の効果はあった。引き続き、周知方法を工夫しながら、受講者の確保に努めていく。